

「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～



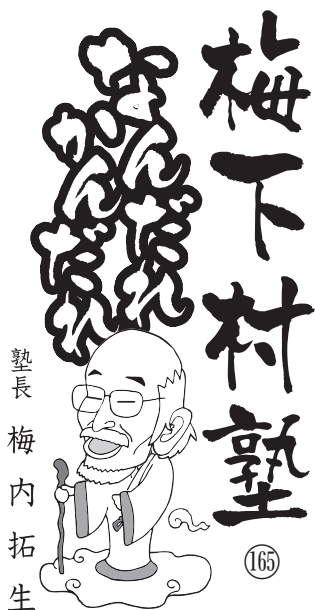
明治時代の若山牧水の短歌
白鳥は哀しからずや空の
青海のあをにも染ま
ずただよふ
この二つの作品をつ
なげると水と空とのつ
らなる白砂青松の高
田松原、大津波の海、
静かに風の吹く大船渡
湾の珊瑚島、まさに、
大自然と生命と文化の
つながった世界が浮か
んできます。

(海と山の風)
海から吹く風と山か
ら吹く風は国や地方に
よっていろいろな名前
で呼ばれており、生活
と密接なつながりがあ
ります。
世界は海からの風と

山からの風が入り混じ
って、国土の軍事、
政治の争いの風が吹い
ております。ウクライ
ナやパレスチナでの戦
争、尖閣諸島、西南海
への中国の侵略は、こ
れら風どうしの緊張状

況を現しております。
7月24日第6面の
「げせんの詩」種山の
空に気仙の青 5月31
日 鈴木英里」には宮
澤賢治の「風の又三
郎」が種山高原の風を
受けて青い空へ飛びた
つ姿が鮮やかに映され
ております。
第1面には「観光・
交流の新拠点完成 気
仙の恵み広く発信へ
海楽荘の大船渡温泉
今月31日オープン決ま
る」として、三陸縦貫
道インターチェンジに
近く、大船渡湾や水平

線を一望できる好立
地の大船渡温泉の写真
が掲載されています。
気仙地方には山と海
の風が入り混じって吹
いており、豊かな恵
みをもたらしており、
同日の世迷言には震災
復興へ向かう気仙地方
に山と海の恵みの風が
吹いていることが述べ
られております。
東海文芸 俳句 7
月24日第5面
大船渡町 小野寺功
南吹く 珊瑚島から
岸壁へ



塾長 梅内拓生